



川の流れが変わったため、足元が完全にえぐられてしまった線路。大きな移設で再発を防ぐ予定だ

設が始まり、その後も同国の物流の柱として使われてきた。  
100年以上にわたってタンザニアの物流を支えてきた中央鉄道だが、全盛期には年間140万トンあった輸送量が、現在では20万トンと大幅に縮小している。そこで、日本は世界銀行と協力し、中央鉄道の整備と活性化を目指している。日本が担当するのは、ダルエスサラームから内陸に280キロほど入ったキロサを起点にグルエまで80キロの区間だ。世界銀行はこれ以外の区間のほか、老朽化した機関車の更新などを担当している。

日本がこの地域を担当するのは理由がある。この地域では、洪水時の川岸の浸食により、線路の下地盤が削られてレールが宙に浮いてしまうなどの被害が生じている。最近の調査では、2年間で最大180メートルも川岸が浸食された部分もあった。また、支川をまたぐ部分では、コンクリート製の排水路(カルバート)の上に線路を設置しているが、排水路の大きさが不十分などの理由で線路が流されたり、浸水したりしている。こうした洪水被害でしばしば列車の運行が止まるため、輸送業者が中央鉄道の利用を敬遠することが、輸送量低下の一因となっているのだ。

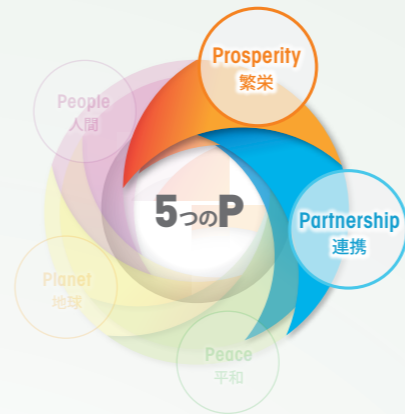
### 内陸国の経済を支える 海からの物流網

近隣の内陸国にとっては、タンザニア国境と自国の消費地をつなぎ、鉄道輸送を補完する道路交通網も大切になる。海から陸への流通コストが、そのまま国内の物価や製品の輸出に影響するからだ。そこで、中央鉄道の改修と併せて、道路の整備も進められている。それを象徴するのが、昨年12月に完工したルスモ橋だ。  
タンザニアとルワンダの国境に

こうした状況を踏まえて、日本の協力では線路をできるだけ川から離れた高台へ移設することや護岸工事の実施なども視野に入れている。この点、日本では河川管理者が治水を含めた河川管理を行っており、鉄道を整備するにあたっては洪水対策を考慮する必要はほとんどない。  
一方、タンザニアには治水を担う官公庁がないため、単なる鉄道の整備にとどまらない、総合的な浸水対策をどこまで組み込めるかが焦点だ。中央鉄道の整備によって、かつてと同じ年間140万トン規模の輸送が実現すれば、タンザニア国内の産業振興につながることはもちろん、ルワンダ、ブルンジなど内陸国の流通事情を改善できる。

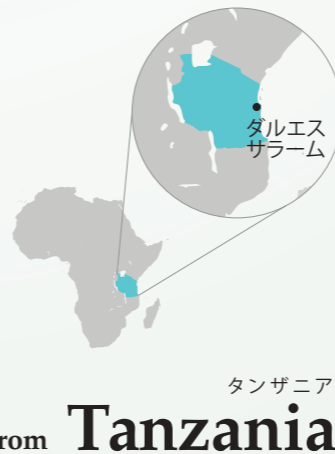
位置するルスモ橋はタンザニアのダルエスサラームからルワンダの首都キガリまでを結ぶ中央回廊上であり、越境するために必要な通関手続きを行う施設に近いこともあって、両国をつなぐ玄関口となる場所だ。しかし、1車線しかなかった橋が老朽化し、通過する車両には厳しい重量制限が課せられていたため、迂回する車も多く、改修前は一日に50台程度しか利用していなかった。  
そこで行われたのが、橋の架け替えと、タンザニア・ルワンダ両国での国境施設、総合管理事務所、貨物検査施設などの建設だ。これまで、旧ルスモ橋を渡れない8トン以上の大型車両は走行距離が400キロも長くなる北部回廊経由で物資を運ぶ必要があったが、新ルスモ橋の開通以降は同橋を経由して直接ルワンダ国内に入れるようになり、通過車両は一日150台程度まで増えている。また、国境施設には出国・入国の手続きを一カ所で行う「ワンストップ・ポーターポスト」も導入されており、開通式では、ルワンダ・インフラ省のジェームズ・ムソニ大臣が「国境における通関手続きのワンストップ化は、経済回廊の障害物を取り除く」と完成の意義を強調した。今後の流通改善に対する地元の期待も一層高まっている。

中央鉄道の起点、ダルエスサラーム駅。背後に発展を象徴する摩天楼が見える



## 経済回廊がいざなう 繁栄の道のり

全世界の陸地の2割の広さに54の国。世界の6人に1人、11億人が住む広大なアフリカ大陸の経済発展のために、物流網の構築は不可欠だ。そこで、地域の軸となる交通・物流網の整備が急ピッチで進んでいる。



### 変わりゆく川の流れに 脅かされない鉄道を

現在、アフリカでは、地域一帯の発展を後押しする大規模な「経済回廊」の整備が進んでいる。その一つが、東アフリカの国々を結ぶ「中央回廊」だ。ケニアからウガンダを経由する北部回廊と並行して内陸部へと延びるこの交通網は、タンザニアの大都市ダルエスサラームを起点に、ルワンダやブルンジ、コンゴ民主共和国西部までを結ぶ物流の大動脈として、近隣の経済を背負っている。

その重要性は古くから認知されており、東はダルエスサラームから西はタンガニーカ湖沿いのキゴマまで、タンザニアを東西に横断する中央鉄道は、ドイツがこの地域を支配していた20世紀初頭に建



グルウェ駅で停車中の旅客列車。日本の協力は、浸水の多いこの地域の通行を確実にする



重い車両が通れるようになったルスモ橋と、併設された国境手続き施設。タンザニア・ルワンダ間の物流の可能性が格段に広がる